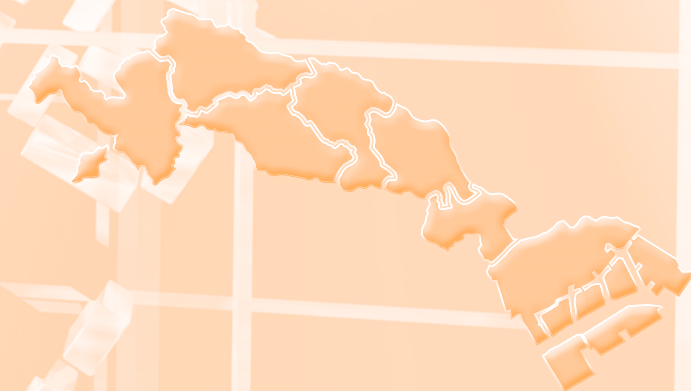


大都市データ

川崎市をはじめ17の政令指定都市と東京都区部の18大都市は「大都市統計協議会」を設置して、各都市の各種統計情報を集約し、毎年「大都市比較統計年表」を発行しています。

ここでは、「大都市比較統計年表(平成19年)」をもとに、主要な統計情報からみた川崎市及び各都市の特徴をまとめました。



1

人口・世帯数及び面積

●人口密度は高く大都市で第3位

都 市 名	政令指定都市 への移行 年月日	区数	人 口	世 帯 数	面 積	人口密度	昼夜間 人口比率	平成20年度 当初予算額
1 東京都区部	—	23	8,652,709	4,293,575	621.97	13,912	135.1	6,856,000
2 大阪府大阪市	昭和31.9.1	24	2,643,805	1,273,480	222.30	11,893	138.0	1,592,504
3 川崎市	昭和47.4.1	7	1,369,443	626,239	144.35	9,487	87.1	609,464
4 横浜市	昭和31.9.1	18	3,627,420	1,531,033	434.98	8,339	90.4	1,359,914
5 名古屋市中区	昭和31.9.1	16	2,236,561	985,322	326.45	6,851	114.7	983,833
6 名古屋市東区	平成18.4.1	7	834,668	333,757	149.99	5,565	93.5	308,700
7 さいたま市	平成15.4.1	10	1,190,282	487,843	217.49	5,473	91.9	390,430
8 福岡市	昭和47.4.1	7	1,426,724	674,147	340.96	4,184	113.4	663,787
9 千葉市	平成4.4.1	6	937,041	386,398	272.08	3,444	97.2	321,300
10 神戸市	昭和31.9.1	9	1,530,168	659,078	552.80	2,768	101.8	727,079
11 北九州市	昭和38.4.1	7	987,230	421,474	487.71	2,024	102.8	504,144
12 京都市	昭和31.9.1	11	1,468,588	665,348	827.90	1,774	108.4	689,555
13 札幌市	昭和47.4.1	10	1,894,344	866,566	1,121.12	1,690	100.9	776,200
14 仙台市	平成元.4.1	5	1,028,775	448,469	788.09	1,305	107.7	408,733
15 広島市	昭和55.4.1	8	1,162,215	500,480	905.13	1,284	102.6	550,187
16 新潟市	平成19.4.1	8	812,783	302,733	726.10	1,119	102.4	330,700
17 浜松市	平成19.4.1	7	810,646	301,028	1,511.17	536	100.7	266,800
18 静岡市	平成17.4.1	3	710,749	273,645	1,388.78	512	103.8	278,900

*人口・世帯数は平成19年10月1日現在。 *区数・面積は平成19年10月1日時点。
*昼夜間人口比率は平成17年国勢調査。 *平成20年度当初予算額の東京都区部は、「都」の数値。

データ チェック

人口及び世帯数が最も多いのは東京都区部で、次いで横浜市、大阪市の順となっており、川崎市は人口、世帯数ともに第9位となっています。また、面積が最も広いのは浜松市で、次いで静岡市、札幌市の順となっており、川崎市は最も狭く第18位です。人口密度では東京都区部が最も高く、次いで大阪市、川崎市の順となっています。

昼夜間人口比率をみると、大阪府が最も高く、次いで東京都区部、名古屋市の順となっています。一方、昼夜間人口比率が最も低いのは川崎市で、次いで横浜市、さいたま市の順となっています。

2

人口増加数

●人口増加数は今年の第3位から大都市で第2位へ

(単位:人) (平成19年)

都 市 名	人口増加 (自然増加+ 社会増加)	自然動態			社会動態		
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市(郡)外との移動	市(郡)内移動その他
1 東京都区部	85,371	3,447	70,307	66,860	81,924	59,069	22,855
2 川崎市	27,050	5,842	14,252	8,410	21,208	20,868	340
3 横浜市	24,439	8,488	33,122	24,634	15,951	15,293	155
4 名古屋市中区	13,410	2,687	20,635	17,948	10,723	9,812	911
5 名古屋市東区	12,188	4,854	14,023	9,169	7,334	5,104	14
6 さいたま市	9,049	▲1,790	23,495	25,285	10,839	10,839	...
7 福岡市	8,645	3,309	10,988	7,679	5,336	4,902	434
8 千葉市	7,092	2,081	8,290	6,209	5,011	5,007	4
9 札幌市	5,153	462	14,460	13,998	4,691	4,545	146
10 仙台市	4,415	3,220	11,637	8,417	999	1,691	▲692
11 広島市	3,182	1,332	7,856	6,524	1,850	1,804	46
12 新潟市	2,508	1,357	7,859	6,502	1,151	730	421
13 仙台市	1,023	2,815	9,505	6,690	▲1,792	▲1,838	46
14 神奈川	980	▲181	12,792	12,973	1,161	1,160	1
15 新潟市	23	▲424	6,659	7,083	447	520	▲73
16 静岡市	▲1,273	▲319	6,009	6,328	▲954	▲1,001	47
17 京都市	▲3,318	▲1,108	11,789	12,897	▲2,210	▲2,980	▲70
18 北九州	▲3,514	▲1,058	8,607	9,665	▲2,456	▲2,807	351

データ チェック

平成19年1年間の川崎市の人口増加数は2万7,050人となっています。前年の増加数1万6,811人から1万2,391人増え、横浜市を抜いて第2位となりました。人口増加数が2万人を超えているのは、川崎市の他、東京都区部、横浜市となっています。

3

年齢別人口

● 生産年齢人口構成比は大都市で最も高く、平均年齢は低い

(単位:人) (平成17年10月1日)

都 市 名	総 数	年齢階級別						平均年齢
		15歳未満		15～64歳		65歳以上		
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
1 川崎市	1,327,011	174,264	13.1%	957,712	72.2%	194,176	14.6%	40.3
2 福岡市	1,401,279	187,960	13.4%	983,585	70.2%	213,380	15.2%	40.3
3 仙台市	1,025,098	140,051	13.7%	718,314	70.1%	161,795	15.8%	40.5
4 さいたま市	1,176,314	170,239	14.5%	815,659	69.3%	186,779	15.9%	41.2
5 広島市	1,154,391	169,133	14.7%	780,767	67.6%	194,598	16.9%	41.6
6 千葉市	924,319	127,608	13.8%	639,711	69.2%	152,231	16.5%	41.7
7 横浜市	3,579,628	481,960	13.5%	2,459,648	68.7%	603,839	16.9%	41.9
8 札幌市	1,880,863	234,086	12.4%	1,318,478	70.1%	325,401	17.3%	42.3
9 名古屋	2,215,062	293,405	13.2%	1,492,010	67.4%	408,558	18.4%	42.4
10 堺市	830,966	117,321	14.1%	553,460	66.6%	154,857	18.6%	42.8
11 京都	1,474,811	177,315	12.0%	990,446	67.2%	292,927	19.9%	43.0
12 浜松市	804,032	116,137	14.4%	524,774	65.3%	160,086	19.9%	43.0
13 東京都区部	8,489,653	901,087	10.6%	5,882,251	69.3%	1,568,617	18.5%	43.2
14 神戸	1,525,393	199,608	13.1%	1,015,642	66.6%	305,501	20.0%	43.4
15 新潟市	785,134	105,256	13.4%	515,996	65.7%	160,386	20.4%	43.5
16 大阪府	2,628,811	315,143	12.0%	1,749,851	66.6%	529,692	20.1%	43.6
17 静岡市	700,886	93,849	13.4%	459,464	65.6%	147,262	21.0%	44.1
18 北九州市	993,525	131,893	13.3%	639,776	64.4%	220,985	22.2%	44.5

*総数には年齢不詳を含む。

(国勢調査)

データ チェック

15歳未満(年少)人口の構成比が最も高いのは広島市で、次いでさいたま市、15～64歳(生産年齢人口)の構成比が最も高いのは川崎市で、次いで福岡市となっています。また、65歳以上(老年)人口の構成比が最も高いのは北九州市で、最も低いのは川崎市となっています。平均年齢は、川崎市と福岡市が最も低く40.3歳で、最も高いのは北九州市の44.5歳となっています。

4

就業者数

● 労働力率は大都市で第1位

(単位:人) (平成17年10月1日)

都 市 名	15歳以上人口		労働力人口				労働力率 B/A
	総数	うち労働力 状態不詳を除く (A)	総数(B)	就業者	完全失業者	非労働力人口	
1 川崎市	1,151,888	1,115,043	737,210	697,009	40,201	377,833	66.1%
2 浜松市	684,860	675,110	441,738	423,787	17,951	233,372	65.4%
3 東京都区部	7,450,868	6,601,485	4,255,010	4,011,554	243,456	2,346,475	64.5%
4 静岡市	606,726	598,179	380,216	360,812	19,404	217,963	63.6%
5 名古屋	1,900,568	1,828,196	1,155,259	1,090,380	64,879	672,937	63.2%
6 広島市	975,365	941,735	593,489	563,701	29,788	348,246	63.0%
7 福岡市	1,196,965	1,107,906	696,976	648,832	48,144	410,930	62.9%
8 さいたま市	1,002,438	974,659	609,173	576,575	32,598	365,486	62.5%
9 横浜市	3,063,487	2,956,906	1,834,323	1,736,859	97,464	1,122,583	62.0%
10 大阪府	2,279,543	2,144,448	1,313,852	1,159,848	154,004	830,596	61.3%
11 新潟市	676,382	667,294	407,921	384,964	22,957	259,373	61.1%
12 千葉市	791,942	750,280	458,378	431,779	26,599	291,902	61.1%
13 京都市	1,283,373	1,208,979	734,881	688,268	46,613	474,098	60.8%
14 仙台市	880,109	829,109	499,104	463,466	35,638	330,005	60.2%
15 札幌市	1,643,879	1,534,075	906,890	840,632	66,258	627,185	59.1%
16 堺市	708,317	679,630	399,226	370,147	29,079	280,404	58.7%
17 神戸	1,320,943	1,266,952	724,501	667,301	57,200	542,451	57.2%
18 北九州市	860,761	833,613	473,418	436,842	36,576	360,195	56.8%

*15歳以上人口総数には労働力状態不詳を含む。

(国勢調査)

データ チェック

就業者数が最も多いのは東京都区部で、次いで横浜市、大阪市の順で、川崎市は第6位となっています。労働力率が最も高いのは川崎市で、次いで浜松市、東京都区部の順となっています。

5 事業所（民営）

● 300人以上の事業所の構成比は大都市で第4位

（単位：事業所）（平成18年10月1日）

都 市 名	総事業所数	従業者規模別事業所数				派遣・下請従業者のみ	300人以上 の構成比
		1人～29人	30人～299人	300人以上			
1 東京都区部	549,199	512,414	34,168	2,088	529	0.380%	
2 横浜市	107,557	100,101	7,016	339	101	0.315%	
3 千葉市	27,353	25,256	1,982	86	29	0.314%	
4 川崎市	39,260	36,776	2,329	123	32	0.313%	
5 大阪市	199,853	187,713	11,207	566	367	0.283%	
6 名古屋	128,419	120,279	7,599	293	248	0.228%	
7 さいたま市	39,555	36,820	2,593	90	52	0.228%	
8 札幌市	72,900	68,187	4,473	160	80	0.219%	
9 東京都市	77,108	73,525	3,352	161	70	0.209%	
10 福岡市	69,164	64,455	4,456	144	109	0.208%	
11 仙台市	45,943	42,917	2,886	94	46	0.205%	
12 堺市	29,445	27,720	1,616	56	53	0.190%	
13 横浜市	36,310	34,342	1,879	68	21	0.187%	
14 神戸市	71,469	67,536	3,628	127	178	0.178%	
15 新潟市	37,757	35,624	2,004	63	66	0.167%	
16 北九州市	46,219	43,911	2,196	77	35	0.167%	
17 広島市	54,051	50,846	3,051	84	70	0.155%	
18 静岡市	38,166	36,347	1,732	53	34	0.139%	

（事業所・企業統計調査）

データ チェック

事業所数は東京都区部が最も多く、次いで大阪市、名古屋市の順となっています。また、事業所を従業者規模別にみると、300人以上の事業所の構成比は東京都区部が最も高く、次いで横浜市、千葉市の順になっており、川崎市は第4位となっています。

6 工業（従業者4人以上の事業所）

● 製造品出荷額等及び従業者1人当たり製造品出荷額等は大都市で第1位

（単位：事業所、人、百万円）（平成19年12月31日）

都 市 名	事業所数			従業者数	製造品 出荷額等	従業者1人 当たり製造品 出荷額等
	総数	4人～29人	30人以上			
1 川崎市	1,734	1,466	268	57,053	4,935,042	86.50
2 堺市	1,804	1,494	310	52,771	3,154,228	59.77
3 千葉市	571	438	133	23,230	1,247,449	53.70
4 広島市	1,499	1,227	272	55,345	2,406,421	43.48
5 北九州市	1,245	936	309	55,083	2,313,263	42.00
6 神戸市	2,138	1,789	349	72,117	2,903,806	40.27
7 東京都	3,111	2,749	362	74,349	2,813,941	37.85
8 静岡市	1,772	1,514	258	48,409	1,759,508	36.35
9 横浜市	3,409	2,838	571	113,409	3,997,371	35.25
10 名古屋	5,778	5,175	603	122,119	4,287,154	35.11
11 浜松市	2,856	2,325	531	92,627	3,225,665	34.82
12 大阪市	8,090	7,231	859	148,272	4,472,298	30.16
13 仙台市	662	548	114	19,217	553,269	28.79
14 さいたま市	1,288	1,104	184	33,763	937,761	27.77
15 福岡市	1,041	874	167	23,974	660,682	27.56
16 新潟市	1,270	1,019	251	39,957	1,078,647	27.00
17 東京都区部	14,916	13,864	1,052	220,740	4,844,140	21.95
18 札幌市	1,173	961	212	31,285	550,199	17.59

（工業統計調査）

データ チェック

製造品出荷額等が最も多いのは川崎市で、次いで東京都区部、大阪市の順となっています。また、従業者1人当たりの製造品出荷額等でも、川崎市は第1位と高い労働生産性を示しています。

7

商業

● 1事業所当たり年間商品販売額は大都市で第10位

(単位:事業所、人、億円) (平成19年6月1日)

都 市 名	卸 売 業			小 売 業			1事業所当たり 年間商品販売額
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	
1 東京都	41,921	747,804	1,612,152	77,302	561,786	133,238	14.64
2 名古屋	12,853	167,439	270,656	19,759	153,086	31,917	9.28
3 大阪市	21,675	283,346	427,526	31,521	197,855	45,479	8.89
4 福岡市	7,286	88,773	120,054	13,154	98,809	19,072	6.81
5 仙台市	4,745	53,363	69,230	8,012	71,362	12,682	6.42
6 広島市	4,746	50,815	63,435	9,126	70,170	13,532	5.55
7 札幌市	5,551	63,482	66,664	10,772	111,543	21,335	5.39
8 千葉市	1,692	22,140	26,004	5,476	55,834	11,207	5.19
9 さがひま	2,576	30,926	34,732	7,028	65,076	12,609	4.93
10 川崎市	1,629	22,203	24,748	7,476	63,117	11,659	4.00
11 横浜市	5,634	66,299	60,688	20,398	182,313	37,194	3.76
12 新潟市	2,905	29,212	26,310	7,854	52,095	9,410	3.32
13 静岡市	2,926	26,129	25,311	7,571	45,665	8,072	3.18
14 浜松市	2,374	21,287	19,668	7,081	48,385	9,377	3.07
15 神戸市	4,625	46,600	40,654	14,607	99,619	17,964	3.05
16 京都市	5,726	57,590	35,553	16,834	110,389	20,137	2.47
17 堺市	1,512	14,708	10,005	5,767	44,289	7,828	2.45
18 北九州	2,652	25,668	19,787	10,696	65,793	10,904	2.30

(商業統計調査)

データ チェック

卸売業では、事業所数、従業者数、年間商品販売額の3項目とも東京都区部が最も多く、次いで大阪市、名古屋市の順となっています。

小売業では、事業所数、従業者数、年間商品販売額の3項目とも東京都区部が最も多く、次いで大阪市、横浜市の順となっています。

また、卸売業と小売業の年間商品販売額を合せて算出した1事業所当たり年間商品販売額は、東京都区部が最も多く、次いで名古屋市、大阪市の順になっており、川崎市は第10位となっています。

8

貿易

● 外国貿易海上輸出入額の総額は大都市で第7位

(単位:億円、千トン) (平成19年)

都 市 名	外国貿易海上輸出入額			海上輸(移)出入貨物数量			
	総 額	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入	移 出	移 入
1 名古屋市	167,486	117,097	50,390	55,959	78,958	44,253	36,433
2 東京都	132,473	55,788	76,684	17,636	28,476	14,934	26,584
3 横浜市	127,769	86,935	40,834	46,304	44,433	21,064	29,957
4 神戸市	92,211	62,224	29,987	23,630	25,840	18,065	28,659
5 大阪市	77,443	34,022	43,421	11,787	25,213	25,421	34,259
6 大川	55,214	14,657	40,557	1,903	16,301	4,027	9,078
7 川崎市	38,529	13,897	24,632	8,126	52,255	20,023	13,532
8 静岡市	31,750	23,024	8,726	4,489	5,728	1,594	4,259
9 福岡市	24,678	15,486	9,193	5,510	9,060	3,321	12,328
10 北九州	19,570	10,027	9,543	7,226	26,548	40,814	39,761
11 広島市	13,354	10,709	2,645	3,435	2,194	3,165	3,678
12 仙台市	9,186	4,043	5,143	1,315	7,261	9,247	10,809
13 新潟市	5,650	1,344	4,306	1,393	14,539	7,193	9,881
14 堺市	3,252	2,821	431	-	-	-	-
- 松本市	-	-	-	694	18,483	7,841	8,711
- さいたま市	-	-	-	-	-	-	3
- 札幌市	-	-	-	-	-	-	-

データ チェック

外国貿易海上輸出入額の総額をみると、最も多いのは名古屋市で、次いで東京都区部、横浜市との順となっています。川崎市は第7位となっており、輸出入額に比べて輸入額が多くなっています。

また、外国貿易を示す海上輸出入数量では、輸出入量ともに名古屋市が最も多くなっています。川崎市は輸出入に比べて輸入量が多く、輸入量は名古屋市に次いで第2位となっています。

内国貿易を示す海上移出入数量では、名古屋市の移出量が最も多くなっており、移入量では北九州市が最も多くなっています。

9 住宅

● 民営借家に住む世帯の割合は大都市で2番目に高い

(単位:世帯) (平成17年10月1日)

都 市 名	住宅に住む一般世帯	持ち家	借 家				間借り	持ち家割合	民営借家割合	1世帯当たり面積(m ²)
			公営借家	都市機構・公社借家	民営借家	給与住宅				
1 福岡市	620,466	238,417	34,593	32,889	281,283	26,813	6,471	38.4%	45.3%	67.6
2 川崎市	573,257	258,849	20,318	10,505	248,972	25,719	8,894	45.2%	43.4%	61.7
3 大阪市	1,188,290	496,237	108,208	42,103	508,073	22,499	11,170	41.8%	42.8%	59.3
4 札幌市	826,479	397,824	30,645	9,062	350,281	24,129	14,538	48.1%	42.4%	76.4
5 仙台市	428,612	209,626	12,871	4,574	178,180	19,476	3,885	48.9%	41.6%	78.8
6 東京都区部	3,936,625	1,802,545	169,971	147,223	1,584,717	151,677	70,492	45.8%	40.5%	61.5
7 広島市	467,793	247,431	20,704	2,553	169,160	22,771	5,174	52.9%	36.2%	80.2
8 京都市	631,780	343,952	25,300	15,659	226,266	12,909	7,664	54.4%	35.8%	72.1
9 名古屋	917,024	435,734	73,556	34,471	325,485	40,917	6,861	47.5%	35.5%	77.2
10 静岡市	261,384	157,971	10,463	1,450	79,263	9,929	2,308	60.4%	30.3%	89.7
11 北九州市	406,089	215,532	34,646	16,086	122,210	14,128	3,487	53.1%	30.1%	79.3
12 さいたま市	448,115	273,317	10,276	8,627	129,000	20,771	6,124	61.0%	28.8%	80.0
13 横浜市	1,404,039	831,932	44,960	54,350	398,172	55,504	19,121	59.3%	28.4%	73.9
14 神戸市	630,594	360,909	61,774	32,441	153,831	15,583	6,056	57.2%	24.4%	76.4
15 千葉市	361,941	213,644	13,194	31,432	86,513	14,468	2,690	59.0%	23.9%	79.2

(国勢調査)

データチェック

住宅に住む一般世帯のうち、持ち家に住む世帯の割合が最も高いのはさいたま市で、次いで静岡市、横浜市となっており、川崎市は福岡市、大阪市に次いで3番目に低くなっています。

一方、民営借家に住む世帯の割合は、福岡市が最も高く、次いで川崎市、大阪市の順となっています。

1世帯当たり面積が最も広いのは静岡市で、次いで広島市、さいたま市の順となっており、川崎市は大阪市、東京都区部に次いで3番目に狭くなっています。

10 消費者物価地域差指数

● 消費者物価地域差指数(総合)は大都市で3番目に高い

(全国 = 100)

都 市 名	平成17年平均		平成18年平均		平成19年平均		平成20年平均	
	総合	食料	総合	食料	総合	食料	総合	食料
1 東京都区部	110.9	108.2	111.0	108.2	110.9	108.4	110.4	107.9
2 横浜市	110.1	107.3	110.1	107.9	110.4	108.2	110.2	108.2
3 川崎市	108.2	107.2	108.3	107.9	108.5	108.1	108.3	107.9
4 大阪市	107.0	105.7	107.0	106.3	107.2	106.1	107.0	105.4
5 東京都市	105.6	106.8	105.7	107.2	106.0	107.3	105.6	107.0
6 静岡市	104.5	102.0	104.4	102.2	105.1	103.0	105.5	103.8
7 さいたま市	104.8	105.3	104.6	104.9	104.6	104.8	104.7	104.7
8 名古屋	104.3	105.0	104.5	105.0	104.8	105.4	104.6	105.3
9 神戸市	103.8	104.1	103.9	104.8	103.9	104.6	103.8	104.9
10 札幌市	103.3	100.7	103.1	100.4	103.1	100.3	103.4	100.7
11 広島市	101.5	101.1	101.6	100.2	101.9	101.1	102.5	101.9
12 新潟市	103.4	101.8	103.2	101.3	102.7	100.4	102.4	99.9
13 千葉市	102.0	102.0	102.1	102.4	102.2	102.1	102.0	100.9
14 福岡市	100.4	100.1	100.4	100.0	100.7	100.6	100.1	99.6
15 仙台市	99.3	97.7	99.4	97.5	99.8	97.5	99.5	96.9
16 北九州市	99.2	99.9	99.2	100.2	99.5	100.4	99.2	100.0
- 浜松市
- 堺市

データチェック

平成20年の消費者物価地域差指数(全国を100とした場合の地域ごとの年平均指数)をみると、総合では東京都区部が最も高く、次いで横浜市、川崎市の順となっています。また、食料では横浜市が最も高く、次いで東京都区部と川崎市が同数となっています。

平成20年平均の総合で全国を下回っているのは、仙台市、北九州市の2市となっており、食料では新潟市、福岡市、仙台市の3市となっています。

11

市民経済計算

● 雇業者報酬割合は大都市で第1位

(単位:百万円) (平成18年度)

都 市 名	市 民 所 得				雇 用 者 報 酬 割 合	財 産 所 得 割 合	企 業 所 得 割 合	1人 当 たり 市 民 所 得 (千 円)
	総 額	雇 用 者 報 酬	財 産 所 得	企 業 所 得				
1 川 崎 市	4,641,031	3,660,917	96,331	883,782	78.9%	2.1%	19.0%	3,458
2 横 浜 市	11,475,960	8,801,782	321,876	2,352,302	76.7%	2.8%	20.5%	3,185
3 大 阪 市	3,659,958	2,619,378	93,816	946,764	71.6%	2.6%	25.9%	3,161
4 広 島 市	9,074,514	6,427,151	360,567	2,286,797	70.8%	4.0%	25.2%	3,443
5 千 葉 市	2,990,509	2,117,918	61,684	810,908	70.8%	2.1%	27.1%	3,214
6 仙 台 市	2,949,578	2,085,470	74,681	789,427	70.7%	2.5%	26.8%	2,871
7 九 州 市	2,645,252	1,860,362	78,167	706,723	70.3%	3.0%	26.7%	2,670
8 北 幌 市	4,996,207	3,486,657	186,438	1,323,112	69.8%	3.7%	26.5%	2,645
9 神 戸 市	4,482,529	3,113,972	242,504	1,126,053	69.5%	5.4%	25.1%	2,932
10 名 古 屋 市	7,984,917	5,243,144	291,662	2,450,111	65.7%	3.7%	30.7%	3,592
11 京 都 市	4,470,976	2,866,947	87,791	1,516,238	64.1%	2.0%	33.9%	3,036
12 福 岡 市	4,587,725	2,618,835	226,769	1,742,121	57.1%	4.9%	38.0%	3,244
13 東 京 市	61,020,100	33,583,200	6,602,500	20,834,400	55.0%	10.8%	34.1%	4,731
- さ い た ま 市
- 静 岡 市
- 堺 市
- 湊 市
- 新 潟 市
- 浜 松 市

データチェック

市民所得総額をみると東京都が最も多く、次いで横浜市、大阪市の順となっており、川崎市は第6位となっています。

また、雇業者報酬の割合をみると川崎市が最も高く、次いで横浜市、広島市の順となっています。

1人当たりの市民所得は東京都が最も多く、次いで名古屋、川崎市の順となっています。川崎市は345万8千円で大都市平均の324万5千円と比べ、21万3千円上回っています。

12

治安及び災害

● 人口10万人当たりの交通事故発生件数は大都市で1番少ない

(単位:件) (平成19年)

都 市 名	交 通 事 故 発 生 件 数		刑 法 犯 認 知 件 数 及 び 検 挙 件 数		
	総 数	人口10万人当たりの交通事故発生件数	認知件数	検挙件数	人口1,000人当たりの認知件数
1 川 崎 市	5,791	422.9	17,862	7,409	13.0
2 横 浜 市	19,037	524.8	43,649	18,363	12.0
3 東 京 都 区 部	45,556	526.5	167,220	54,864	19.3
4 大 阪 市	9,975	526.6	29,471	10,843	15.6
5 千 葉 市	5,130	547.5	20,065	7,289	21.4
6 さ い た ま 市	7,354	617.8	22,188	6,547	18.6
7 仙 台 市	6,477	629.6	15,664	4,436	15.2
8 新 潟 市	5,249	645.8	11,145	3,199	13.7
9 神 戸 市	10,077	658.6	32,347	9,673	21.1
10 大 阪 市	18,263	690.8	90,620	18,709	34.3
11 東 京 市	5,842	699.9	19,928	3,788	23.9
12 京 都 市	10,586	720.8	34,679	9,416	23.6
13 広 島 市	8,491	730.6	16,579	5,979	14.3
14 名 古 屋 市	18,127	810.5	59,186	12,305	26.5
15 北 九 州 市	9,095	921.3	20,781	8,474	21.0
16 福 岡 市	13,723	961.9	34,593	13,696	24.2
17 静 岡 市	7,238	1,018.4	8,898	2,749	12.5
18 浜 松 市	9,620	1,186.7	9,609	2,676	11.9

*交通事故発生件数は、道路交通法の「道路上」での法規違反による事故数を集計したものである。

*検挙件数は、発生地計上によるものである。

*平成19年10月1日現在の人口で算出。

データチェック

人口10万人当たりの交通事故発生件数は川崎市が最も少なく、次いで横浜市、東京都区部の順となっています。また、人口1,000人当たりの刑法犯認知件数は浜松市が最も少なく、次いで横浜市、静岡市の順となっており、川崎市は第4位となっています。



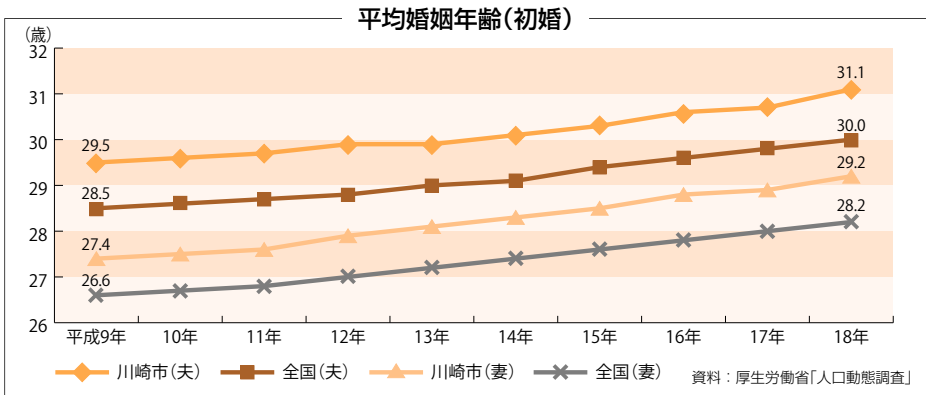
「結婚」と言うと、最近は晩婚化・未婚化が進んでいると言われています。また、川崎市では、近年、平均年齢は政令指定都市のなかでも一番低く、若い世代が増加しています。そこで、川崎市民の結婚事情はどうなっているのか見てみました。

平均婚姻年齢

川崎市の平均婚姻年齢（初婚）をみると、全国より高く、年々年齢が上がっていることが分かります。初婚年齢は平成9年から平成18年の10年で、男性は1.6歳、女性は1.8歳上昇しています。

また、川崎市では、男女の年齢差は、平成9年では2.1歳ですが、平成18年では1.9歳とわずかながら差が縮まっています。

ちなみに、平成18年中に婚姻届を提出した川崎市の初婚男女の年齢（同居を始めた時、または結婚式をあげた時の年齢）は、最年少が男性17歳、女性15歳で、最高齢が男性75歳、女性63歳でした。



未婚率

次に、未婚率をみると、15歳以上及び25～29歳の未婚率は男女ともに川崎市は全国を上回っています。また、25～29歳の未婚率は男女ともに全国でも川崎市でも上昇していて、特に川崎市の女性は、昭和60年は32.4%でしたが、平成17年では61.4%と大きく上昇しています。

